

「急性期高齢大腿骨近位部骨折術後患者の骨折型と退院時歩行能力の関係」の研究について

## 1. 研究の対象

2023年4月から2023年10月までに大腿骨近位部骨折を受傷され、当院で手術・リハビリテーションを行い、回復期病院に転院された患者様10名です。クリニカルパスから外れた方や、コミュニケーションがうまくいかず指示に従えなかった方は研究の対象外としました。

## 2. 研究目的・方法

大腿骨近位部骨折は高齢者の中でも頻度が多い怪我の一つです。大腿骨近位部骨折を受傷した場合、適切な手術やリハビリテーションを行っても、全ての人が元々の生活に回復するとは限らないと言われています。先行研究では、歩行機能の回復のためには、急性期病院における歩行能力が関連するとの報告もあり、当院での目標設定や適切な介入が重要です。一方で、大腿骨近位部骨折は大きく頸部骨折と転子部骨折に分けられますが、急性期病院における歩行機能の回復にどれだけ関連するのかは不明な点も多いです。

よって今回の研究では、大腿骨近位部骨折の骨折型(頸部骨折か転子部骨折か)が、術後2週間後の歩行機能と関連するのか、また急性期の特徴である痛みや炎症反応と関連するのかを調査することを目的としました。

研究期間は病院長許可日から2024年6月30日までです。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・患者背景:年齢,性別,受傷前ADL,認知機能(MMSE)
- ・手術情報:骨折型(頸部骨折/近位部骨折),術式
- ・術後評価:疼痛の程度,炎症反応(CRP値),退院前歩行機能(リハビリ記録より)

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

コメントの追加 [1]: 使用する情報をすべて開示する必要があるため、計画書より転記しました。追記事項がありましたらお願いします。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：磐田市大久保 512-3 場所：磐田市立総合病院 リハビリテーション技術科  
Tel：0538-38-5000（代表） 研究責任者：清水貴久